

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	技術史		
英文授業科目名			
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	1、3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	佐藤 賢一		
居室	東1-713		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題： 人間が人間として生活を営むために築きあげてきた「技術」の歴史を概観する。本学の学生が様々な専門分野に進むことを想定して、比較的古い時代の産業技術、生活関連技術を実例に則して講義する。</p> <p>(b) 達成目標： 人間と技術の関わり、技術のたどってきた道筋を知ることによって、各自が「技術」そのものについて考えるきっかけを見つけること。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし。</p>
--------------------------------------

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>特になし。</p>
---

<p>【教科書等】</p> <p>参考書：講義時に指示する。</p>
------------------------------------

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：以下の内容について講義する。

- ・農業社会の生活技術
- ・製鉄の歴史
- ・近代初期の産業技術
- ・測量術の展開
- ・観測と計量の歴史

(b) 授業の進め方：

講義形式で進める。特に予備知識は求めない。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

中間レポート、ならびに期末試験による。

(b) 評価基準：

中間レポート、ならびに期末試験では、講義の内容理解を前提とした上で、技術史に対する発展的な問題意識の有無を問いかける形式の出題をする。歴史を踏まえた上で、今後「技術」といかに関わっていくのかを自らの言葉で語ること、これを合格(可)の要件とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は講義終了時に受け付ける。

【学生へのメッセージ】

知的好奇心旺盛な諸君を歓迎します。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【その他】